

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



KAWASAKI CITY

平成22年6月28日（月）～7月4日（日）〔平成22年第26週〕の感染症発生状況

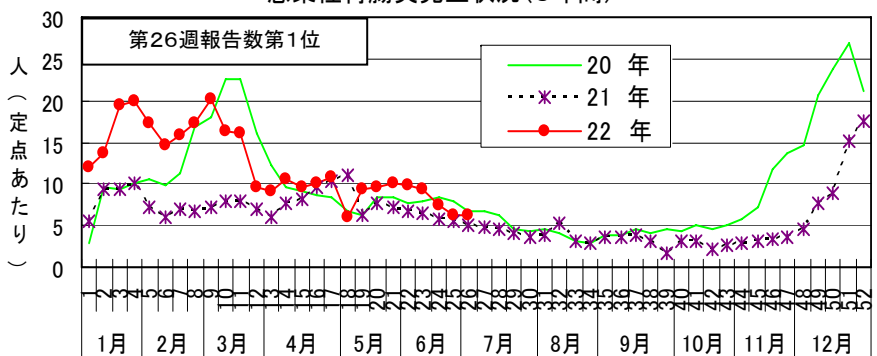
第26週で報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)ヘルパンギーナ 3)手足口病でした。

感染性胃腸炎が定点あたり6.21人と前週（6.15人）に比較して患者数は増加しております。ヘルパンギーナは定点あたり6.09人と前週（4.21人）に比較して患者数は大幅に増加しており、流行発生警報基準値（定点あたり6人）を超えました。特に、幸区・宮前区・多摩区で報告が多くなっています。

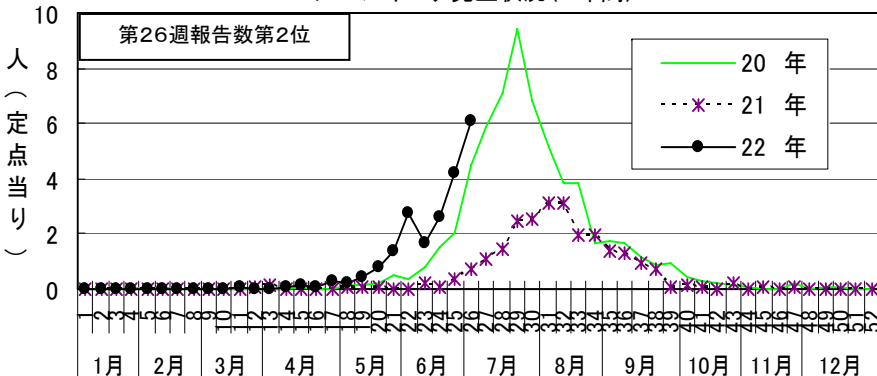
腸管出血性大腸菌感染症の届出が1件（感染原因：不明、感染地域：不明）ありました。

麻しんの届出が1件（感染原因・感染地域：不明、ワクチン接種歴：不明、年齢：41歳）ありました。

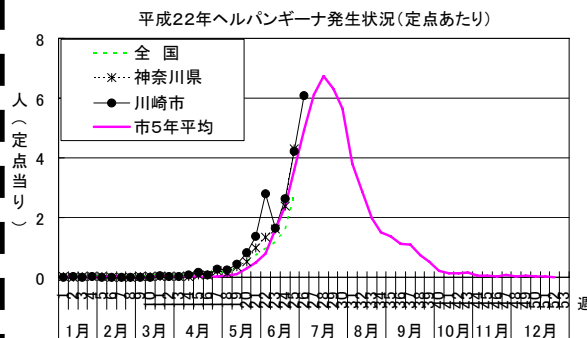
感染性胃腸炎発生状況(3年間)



ヘルパンギーナ発生状況(3年間)



警報基準値を超えました！！～ヘルパンギーナ～



お子さんが「突然の高熱が続いてのどの奥に水疱ができ、食事ののどを通らず立ってしまっしょうがない。」そんな症状が今までありましたか？これはヘルパンギーナの特徴的な症状です。

ヘルパンギーナは例年7月8月をピークに流行します。左に川崎市・神奈川県・全国の患者数をあらわしたグラフがありますが、患者数は増加傾向にあります。

ヘルパンギーナってどんな病気？

ウイルスによって起こる「夏かぜ」の代表疾患の一つです。4歳以下の子どもに多く発症します。発熱とのどの痛みが特徴で、のどの奥の方の小さな水疱が4-5カ所できて、やがて小さな潰瘍となります。これが飲食のとき痛みます。十分な飲食ができず脱水状態とならないよう水分補給に注意してください。発病から1週間もすれば飲食時の痛みは楽になります。通常は、一週間以内に治りますが、まれに髄膜炎を合併することがあります。発熱・頭痛・嘔吐がひどいときや水分が十分にとれないときは、早めに医療機関を受診しましょう。

ヘルパンギーナはここに注意！！

ウイルスに感染してから症状が出るまでの期間（潜伏期）は通常2日から4日です。最初の症状は、38～40℃の発熱です。飛沫感染のほか、のどや鼻の分泌物あるいは便の中のウイルスが、手などによって、口や鼻の中に運ばれて感染します。感染させてしまいやすいのは、症状が出てから2、3日までです。

予防のためには、患者も、その周囲の人たちも、手をよく洗うことです。患者便からは、症状がなくなっても、一ヶ月ほどウイルスが出ている可能性があるため、特に患者のおむつを替えた後などは、ウイルスが付着する可能性があるため、良く手を洗いましょう。また、患者のタオルは別にしましょう。